

# 北中だより 9月号

## 自主・自律・自己実現

茨木市立北中学校

北中学校がめざす生徒像

## 豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒

### 保護者のみなさまへ

2学期が始まりました。1学期に続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止の対応のため、本校においても教育活動を例年とは大きく変更し実施していかなくてはなりません。合唱祭や2年の職場体験学習は既に中止を決定しております。また、3年生の修学旅行も再延期して実施を検討しておりましたが、昨日(8/17)、茨木市の対策会議での「市内小中学校の修学旅行は中止する」との決定を受け、中止することになりました。さらに、クラブ活動においても、多くの大会や演奏会などで中止等の対応がとられました。



そのような状況の中、生徒は多くの我慢を強いられ、大きな不安やストレスの中、学校へ登校し学校で生活しており、学校といたしましては、生徒にとり安心安全な居場所として、学校が生徒を包み込むことができるよう教育活動を進めております。保護者の皆様には、まだまだ終息までは時間が必要な状況で、今後も幾度となく急な対応や予定の変更等をお願いすることもあると予想され、ご心配やご苦労をおかけいたしますが、なにとぞご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 生徒のみなさんへ ころの壺



今年度は、生徒のみなさんもとても多くの我慢を強いられていますね。その中で不安やストレスを抱えている人も少なくないではありませんか？

笑いのツボ、マッサージのツボ、感動するツボ、日常でも“～のツボ”という言葉がありますね。どうやら、人間の身体に必要な栄養素や血液が流れる管の分岐点のことを指す医学用語が語源のようです。日本ではそれが、“ツボ(壺)”と表現されているようですね。

“ツボ(壺)”は、心の中にもあります。心の中に壺があることを頭でイメージしてみてください。

どんな形をしていて、どんな色で、どんな大きさですか？

そして、その壺の中に自分が入ってみて、探索できるとしたら、何があって、何が見えてくるでしょう？

人の“心の壺”は、そんなに大きなものではありません。また、そんなに頑丈なものでもありません。

人が持つ“心の壺”は、かんたんに外からの衝撃によって傷がついたり、ヒビが入ったり、時にはほんの少しの衝撃で割れてしまうこともあるようです。また、時には、壺の中に溜まっているその人が大切にしているものがあふれ出てしまうこともあるのです。

学年や学級のなかま、部活のなかま、家族など、まわりの人の“心の壺”、大切にしていますか？

“心の壺”が傷ついたままでしんどい思いをせず、家族、友だち、まわりの信頼できる人、学校の先生にそのことを話してくださいね。

